

手賀沼におけるコブハクチョウ (*Cygnus olor*) の繁殖記録

齊藤安行

キーワード：コブハクチョウ、手賀沼、繁殖、千葉県

コブハクチョウ (*Cygnus olor*) は、元来ヨーロッパの温帯地域に分布する鳥であるが、北アメリカ、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドに飼い鳥として移入され、一部で野生化している (Madge 1988)。日本でも同様な例がみられる。1970年代後半、北海道の南西部で野生化した個体群が分布を拡大したのを始め、1980年代には、全国各地の湖沼でしばしば確認されるようになった (Brazil 1991)。

千葉県北部に位置する手賀沼では、1987年8月に、一つがいのコブハクチョウが住み着き (我孫子野鳥を守る会 1994, 山階鳥類研究所 1988)、その後、繁殖を確認した。また、手賀沼に立ち寄るコブハクチョウもしばしば確認したので、1995年12月までの記録をまとめて報告する。なお、これらの記録は、既存の資料の記載、手賀沼とその周辺地域の鳥類センサス結果報告Ⅱ (齊藤ほか 1992)・手賀沼とその周辺地域の鳥類センサス結果報告Ⅴ (平岡ほか 1994) で報告した調査の際に確認した記録をもとに、それ以外の観察記録を加え補足したものである。

・手賀沼におけるコブハクチョウに関する情報

手賀沼でコブハクチョウが最初に記録されたのは、1973年3月である (千葉県 1976)。その後、しばらく観察記録はなかったが、1987年8月に一つがいのコブハクチョウが手賀沼に住み着いたことが確認された (我孫子市野鳥を守る会 1994, 山階鳥類研究所 1988)。その後1994年12月までに、観察できた手賀沼のコブハクチョウに関する記録を表1にまとめた。

1987年8月に手賀沼に住み着いたコブハクチョウの一つがいは、3年後の1990年に手賀沼で初めて繁殖した。その後、1991年、1993年、1994年とほぼ毎年、造巣・産卵が確認された。

定着したつがいが繁殖するまでの間に、つがいの一方 (雌) が死亡し、雄は新たな個体とつがいを再形成している。手賀沼には、しばしばコブハクチョウが、外部から立ち寄ることがあるが、つがいを再形成した時の1例以外は、定住しなかった。

・コブハクチョウの個体数の変遷

1987年から1994年までの個体数の変化を図1に示した。各月の個体数は、その月に観察された最多個体数である。コブハクチョウの個体数は、一時立ち寄り個体によって、激しく増減するが、定着した一つがいが繁殖し、定着個体数は徐々に増加している。

表1 手賀沼のコブハクチョウの記録

1987年	8月28日：手賀沼に初めてつがいが定着する。
1988年	2月5日：3羽の寄留個体確認。 2月26日：4羽の寄留個体確認。 3月25日：6羽の寄留個体確認。 9月29日：2羽の寄留個体確認。
1989年	2月27日：2羽の寄留個体確認。
1990年	1月25日：2羽の寄留個体確認。 2月5日：定着番の雌死亡（打撲＝腹腔内出血と腰帯骨折あり）。 2月22日：定着つがい雄は、寄留個体と新たにつがいを形成し定着。 4月19日：定着つがいに、ヒナ1羽誕生。 9月20日：4月誕生の幼鳥死亡（釣り針のむ）。
1991年	6月15日：定着つがいに3羽のヒナ誕生。
1992年	2月18日：前年6月生まれの幼鳥1羽死亡（交通事故）。 8月14日：前年6月生まれの幼鳥1羽行方不明。
1993年	1月13日：1羽の寄留個体確認。 3月18日：1羽の寄留個体確認。 5月4日：湖北集水路河口左岸のヨシ原内に、9卵の放棄巣発見。
1994年	4月20日：1羽の寄留個体が、1991年6月生まれの定着個体と行動を併にしていたが、2～3日でいなくなった。 6月15日：定着つがいに5羽のヒナ誕生。うち2羽は白色型（Polish Type）。 7月14日：6月生まれのヒナの1羽（白色型）行方不明。 12月3日：6月生まれの幼鳥1羽（普通型）死亡（釣り針をのみ保護された個体）。

注1. 定着とは、手賀沼に渡来後、1年以上住み着いたことを示す。

注2. 寄留とは、手賀沼に渡来後、1カ月以内に渡去したことを示す。

表2 手賀沼で生まれたコブハクチョウのヒナの数

年	確認卵数	確認ヒナ数	孵化後6カ月以上 生残した個体数	6カ月目のヒナ の生残率（割）
1990	—	1	0	0
1991	—	3	1 (2) *	3 (6) *
1993	9	0	0	—
1994	—	5	3	6
計	—	9	4 (5) *	4 (6) *

注. *印（ ）は、1992年に行方不明になったヒナが、生残していると仮定した場合の値。

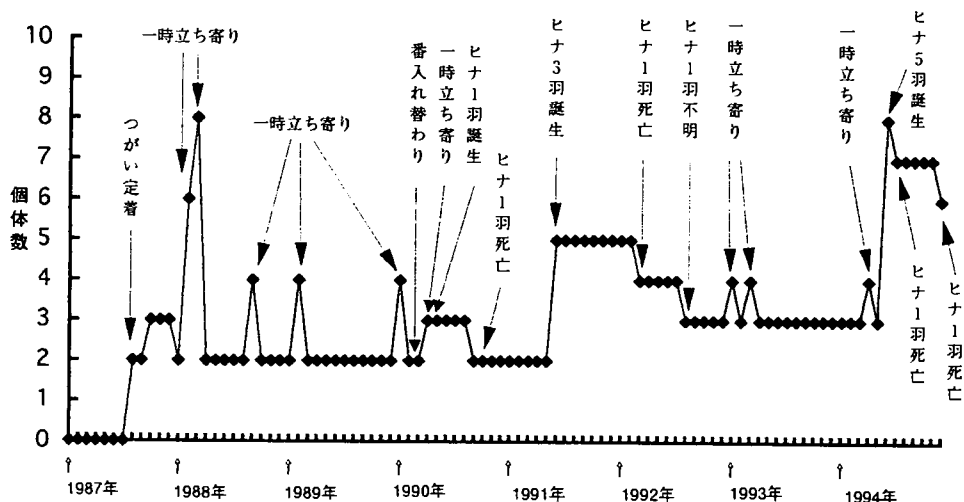


図1 手賀沼のコブハクチョウの個体数の月変化
注. 個体数は各月の最多個体数

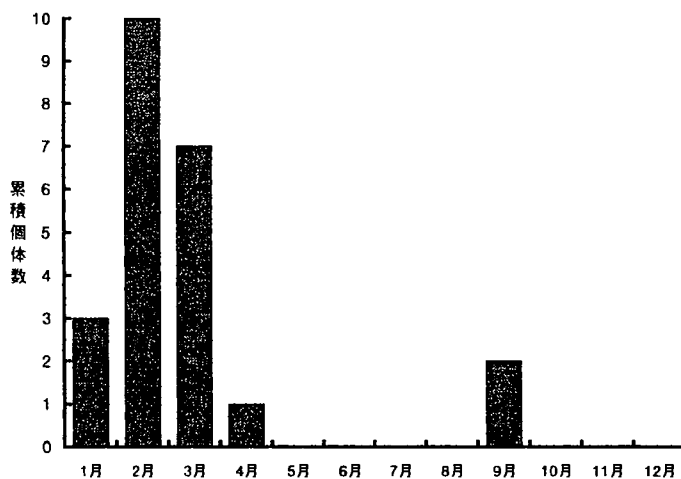


図2 累積寄留個体数の月変化
注. 個体数は、1987～1994年（8年間）に確認した寄留個体数を月別に累計したもの。

・繁殖個体数に関する記録

手賀沼で産まれたコブハクチョウの個体数に関する記録を表2に示した。1990年、1991年、1993年、1994年の4回繁殖し、延べ9羽のヒナが誕生した。そのうち、誕生後6カ月以上生き残っていたものは4羽で、全ヒナ数の4割であった。

・ヒナの死因について

手賀沼で誕生したヒナのうち、4羽の死亡個体を回収した。そのうち2例は釣り針を飲んだ個体、1例は路上で車に跳ねられたもの、1例は腰帯に骨折があることから何らかの打撲を受けたことが原因で死亡したものであり、いずれも人為的な原因であった。

・コブハクチョウの月別立ち寄り個体数

手賀沼に一時的に立ち寄ったコブハクチョウの累積個体数を、月別にまとめ、図2に示した。一時的な立ち寄りには、9月および1月から4月までの間にみられた。

引用文献

- 我孫子市野鳥を守る会. 1994. 手賀沼の鳥-20年の観察記録-. 我孫子野鳥を守る会, 千葉.
- Brazil, Mark A. 1991. The Birds of Japan. Christopher Helm, London.
- 平岡考・斉藤安行・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1992. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅴ-水面(1991-1993)-. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告3:81-89.
- Madge, Steve & Burn, Hilary. 1988. Wildfowl. Christopher Helm, London.
- 斉藤安行・平岡考・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1992. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅱ-水面(1988-1990)-. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告1:61-73.
- 千葉県. 1976. 千葉県鳥類目録(昭和50年度), 千葉県.
- 山階鳥類研究所. 1985. (仮称)我孫子市鳥の博物館建設に関する資料収集及び展示物製作業務委託事業報告書. 我孫子市教育委員会, 千葉.

The first breeding report of Mute swan (*Cygnus olor*) in Tega-marsh.

Yasuyuki Saito

KEY WORDS : Mute swan, breeding, Tega-marsh, Chiba

Abiko City Museum of Birds. 234-3 Kohnoyama, Abiko, Chiba, 270-11, Japan